



生徒指導部から

== 未来の花を咲かせるために ==

2026年3月19日

春分を中日とした七日間は春彼岸、ご先祖様に感謝し供養する日本独自の仏教行事です。「暑さ寒さも彼岸まで」とも言われ、いよいよ本格的な春を迎えます。進級、進学、就職など春は始まりの季節です。始まりのときに、いかに自分を奮い立たせるか・・・何かを成し遂げるため、未来づくりにはとても大切なことだと思います。「春風や関志いだきて丘に立つ」は、高浜虚子が俳壇へ復帰する強い決意を表した句です。

今年度も終わり間近。

あなたたちにとって、どんな一年間でしたか。

本気で勉強に打ち込んだ人 部活動に明け暮れた人 学校行事を引っ張った人

何かに頑張れた人も何となく時間だけが過ぎていった人も

同じだけの時間を過ごしてきました。



底抜けに楽しかった時もあれば、

出口が見えない暗い気分に入った時もあったでしょう。

やる気に満ちて前向きな日もあれば、

どうしようもなくうつむいてしまいがちな日もあったはず。

友達や家族と通じ合えている幸せを感じたり、

人間関係で悩み、心も体も調子を崩してしまったり。

そんなすべてが偽りのない自分自身の姿。

それは成長するためにとっても大切なことです。

幼い頃は、見聞きすることのすべてが新しいことで、

それまでよりも大きな楽しさや悲しさを味わう出来事が起こります。

変化に富んだ毎日なので、一年間がとて長く感じられていたはずですが。

それが年齢を重ねていくと、一年間があっという間に過ぎてしまいます。

新しい経験や感じたことのない喜怒哀楽が少なくなるからだとされています。

同じ時間が流れているはずですが、その中身(重さ)は人によって全く違うものです。

どうせ同じ時間なら、少しでも中身の詰まった「人生の缶詰」を作ってみませんか。

将来のために多くの成功、失敗、そして喜びや苦しみをぎゅっと詰め込んで。

年度の終わり、そして、新年度の始まりという節目に何を思うか。

人生の缶詰を中身の詰まったものにするために、とても大切なことだと思います。

1年生もしくは2年生としての一年間がどんな一年でしたか？

2年生もしくは3年生としての一年間は、どんな一年にしたいと思いますか？

4月から勢いよくスタートが切れるように、心の中に振り返りと未来予想図を！

始業式は、4月7日(火)です。

頭髪服装指導が行われます。前日までにきちんと整髪・散髪をしてください。

一年間の決意を胸に、元気よく登校することを願っています。

『春風や 関志いだきて 丘に立つ』の心境で。

過去が咲いている今 未来の蕾で一杯な今

河井寛次郎 (陶芸家)

今の自分はこれまでの自分がつくった自分 将来の自分は今の自分がつくる自分

自分には嘘も言い訳もできません。

聖人のこんな言葉もあります。

「いまのあなたがいまのあなたの運命にふさわしい」 釈迦

「あなたの行動はあなたの未来の予言者」 キリスト

